

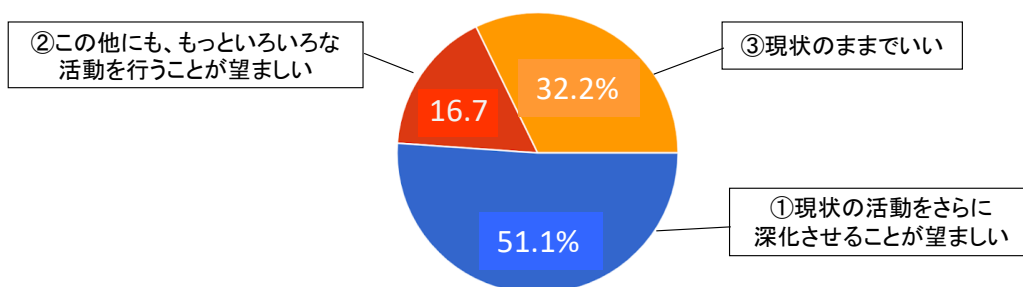
会員アンケート結果

1993年に設立した当会も来年9月には満30年を迎えます。これを機に、当会の役割や今後の活動などにつきまして、会員の皆様率直なご意見・ご希望などをお伺いしたいと思い、アンケート調査を行いました。ご回答いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

【送付数（郵送、メール）】279 【回答数】90

問1. 活動内容について

現在、会報やホームページ、ミニセミナーなどによる普及活動、部会活動、環境文明塾、グリーン連合と連携した政策提言・白書づくり、経営者環境力大賞事業など行っています。このことについて、どのようにお考えですか。一つだけご選択下さい。

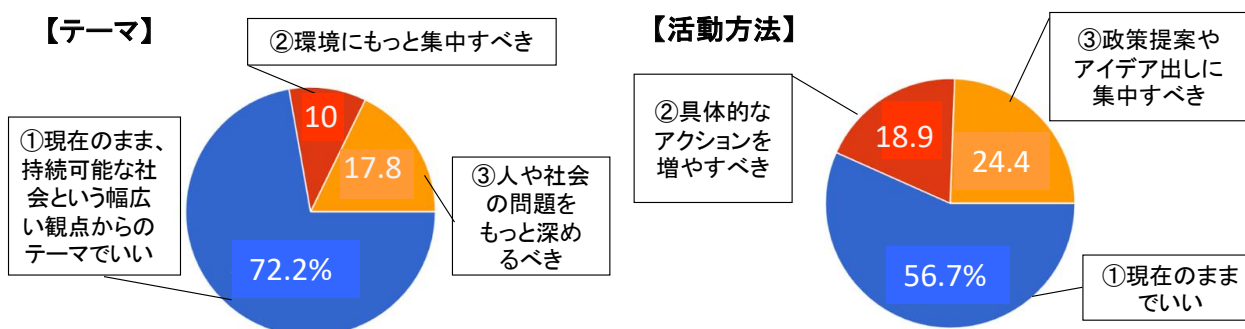


【②具体的に】

多くの方に届けるため、SNSの活用等による広報・普及活動を強化／政策につなげる活動（政治家との連携も含む）／環境活動に取り組む優良事業体と広域企業・自治体との橋渡し／会員外への活動の見える化・研修会や勉強会の開催／環文が蓄積した知見をさらに広める戦略的広報／新部会の設置／一般への情報発信／検証したデータの提供／現場とのつながり など

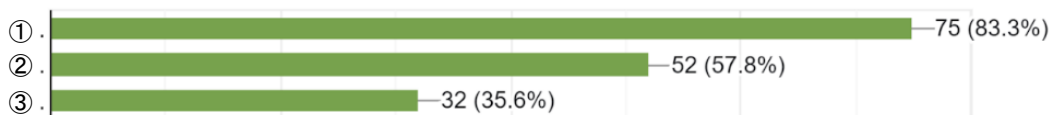
問2. 環境文明の位置づけ

「環境問題は文明の問題」という設立当初からの視点に基づき、特定の環境問題だけでなく、持続可能な社会という観点から幅広いテーマに取り組んでいます。またデモなど具体的なアクションではなく、調査研究に基づく提案やアイデア出しが中心です。このことについて、どのようにお考えですか。【テーマ】【活動方法】ごとに一つだけご選択下さい。



問3. 様々なNPOが活動する中で、環境文明21ならではの活動とは、どのようなことだとお考えですか。該当する選択肢にチェックをお付けください。（複数回答可）

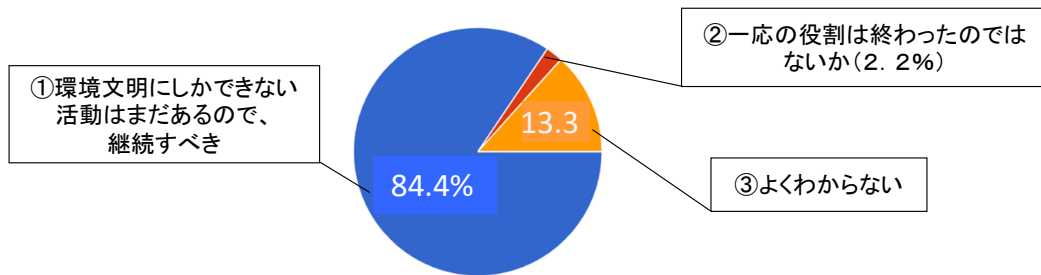
- ① 幅広い視点から環境や持続性について発信し探求し続けていること
- ② 価値観の転換という難題に取り組み、主張し続けていること
- ③ 憲法に「環境・持続性原則を入れる」ことを働きかけていること



【問3 その他（自由記入）】

文明や人としての倫理感に基づいた環境啓発活動／営利事業を通じた環境貢献／地域性のある環境文化を視野に／経済への配慮 など

問4. 環境文明 21 の存在価値についてどのようにお考えですか。一つだけご選択下さい。



問5. あなたが会員としてできること、したいことは何ですか。いくつでも○をお付けください。

- ①会の活動状況を周囲にも伝え会員獲得につなげること
- ②寄付や遺贈など資金面での支援
- ③会員として支援を続ける
- ④特に思いつかない



【問5 その他（自由記入）】

地域の活動や情報を発信する／本会の特徴的ある立ち位置（倫理など）をアピールする／経済屋として環境問題にどう取り組むべきか検討する／他の NPO との交流

問6. そのほか、ご意見ご要望など、ご自由にご記入ください。

【励ましのメッセージ】

- 活動は素晴らしい／本質的なことを問い続け発信し続けていることは特筆に値し日本の NGO では環境文明だけ／もっと強く世の中にアピールしてほしい／環境文明の強みを生かした活動を進化（深化）させてほしい／「脱炭素時代を生き抜く環境倫理」大賛成でこれから生活していく上での指針にしたい／価値観の転換は難題だが引き続きがんばれ／ など、励ましのメッセージをたくさん頂きました。とても勇気づけられました。
- 会報についてもとても読みごたえがあって毎月楽しみにしているというメッセージも頂きました。
- 「文明」に関する主張が「宗教」に近いものと取られかねない。昔への回帰の主張ではなく、新しい生活様式や産業形態といった文明の開拓・展開が必要では、とのご意見もありました。
- 政策提言や持続性について発信してきた価値・存在意義は大きいと思うが、発信を受け入れる社会は近年大きく変わっているので、根幹はずれずに、展開に多様性を持たせることは非常に難しい、とのご意見もありました。

【他者・若者との連携について】

- 同じような意見を持つ者同士の意見交換は、日本社会の変革には限界があり、幅広い支持を得ないと目的は達成できないので、相反する意見を持つ人やグループ（例えば重工業の経団連の幹部など）との議論を

公開で行うことも必要ではないか、とのご意見がありました。

これについては、会としても個人的にも、経団連の方と意見交換したり、審議会で同席した重工業の方に面談をお願いしたりしましたが、先方からはなかなか受け入れられず、会報への執筆さえも断られる状況です。先方（特に気候変動に後ろ向きの大企業）が望まないことを実現するのはとても困難ですが、もしそうした機会があれば、喜んで伺いたいと思います。一方、経営者「環境力」大賞事業を10年余続けているように、変化が望める中小企業の方との連携は強めており、社会変革にはその方が近道だと思っています。

○若者との連携についても、会報への登場、参加機会を増やすなど、数名の方からご意見頂きました。

会報の執筆は（年齢の記載がないため）お気づきでないかもしれませんが、度々若い方にも登場してもらっています。また機会があれば大学での授業を行い、世界と連携して活動するFFFの学生にも働きかけたりしています。しかし、彼らが既存団体との付き合いや大人の関与を嫌う傾向もあります。外部との連携同様“言うは易く行うは難し”の状況ですが、そうした機会があれば、ご紹介ください。

○若い人を間において、特定課題について専門家に議論していただくような対談も有効ではないかとのアイデアや、更に地道な活動を続ける事が次世代へのメッセージになるとのご意見もありました。

○幅広い関係者や専門家の自由な意見交換、情報交換などの交流ができる場（フォーラム）としての役割に期待しているというご意見もありました。これについては月に一度のミニセミナーで実施していますので、ぜひご参加ください。

【今後の運営について】

○これまでの根本的価値観の転換や理念の探求は継続すべきだが、社会情勢に合わせた自己変革や活動の根本を見直す時期かもしれないというご意見や、何をすることも資金力が必要であり万策尽きたら止めるのもよい、というご意見も少数でしたが、ありました。

これについては、続けるべきという励ましのご意見が圧倒的に多かったことから、少しずつ活動形態の変更も考えながら、できるだけ継続していきたいと考えています。

【個別の提案について】

○例えば、政治や社会を動かすマスコミへの働きかけをもっと／地方行政や企業の取組をもっと紹介してほしい／気軽に市民が参加できるテーマの設定／当会の活動は総合政策提示の唯一の民間環境組織だがこの社会状況での運営は困難な為、長谷村での農業実践のように理念を実行している現場との協働を進める／会員企業間のパイプ役／ビジネス拡大という視点の拡大／環境文明史観の提示／人々の意識への更なる働きかけ／エコファンド、クラウドファンド等を通じた環境投資／漫画やTVなどでやさしく、幅広く、生活に密着していくことを知らせる／ など個別の提案も多く頂きました。

この中には既に実施している内容も活動もありますが、スタッフ体制も含めすべての実施は困難です。今後はこのご意見も踏まえ、会員の皆様の協力を得ながら、優先順位を考え、少しずつ着実に進めていきたいと考えています。

（文責：藤村）

この他に、ご自身のお考えを書いたものもありました。紙面の関係上、全てのご紹介はできませんが、Webでは全回答がご覧になれますので、活用ください。

URL：<http://www.kanbun.org/2022/2022questionnaire/2022questionnaire.pdf>